

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校 第2学年

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策
国語	学力調査の結果において、「文法・語句に関する知識」の問題で3.4ポイント、「作文」の問題で7.1ポイント、目標値を下回っており、領域別では「書くこと」の能力に課題が見られた。特に作文については無回答も多く、制限時間内で文章を組み立てる力も不足していると考えられる。	短作文の課題や200字程度の意見文を制限時間内に書く活動などを定期的に取り入れ、書き方の「型」を身につけさせ「書く能力」の向上を図る。また、読解の授業の中においても、読み取った内容を自力で再構築しアウトプットする活動も増やす。
社会	・授業に意欲的に取り組む生徒がほとんどである。板書事項以外の内容をノートにメモする生徒も増えてきた。 ・そのため、定期考査などでは、授業中に理解できた内容については記述できるが、むしろ単純な知識を問う問題の正答率が低い傾向が見られる。定期考査に向けての総学習時間も5時間以内の生徒が多い。基礎・基本の定着のため、主に家庭での学習習慣の確立や充実が重要だと思われる。	・確実に身に付けさせたい事項に絞って小テストを実施する。 ・定期考査のときにまとめてワークの進み具合を確認するだけでなく、家庭学習を促す宿題プリントを出して、提出させる。
数学	・学力調査の結果からはすべての観点で全国平均を上回る結果となったが、目標値との比較においては数量や図形などについての知識が0.4ポイント下回っており、領域別と併せて考えると関数への理解が不足している。 ・累積度数の問題の無回答率が高く、資料の活用において読み取ることはできるが、情報を整理することへの知識が不足していると思われる。	・基礎基本を身に付けるための毎回の授業においての小テストを継続していく。 ・ノートの記述及びまとめが不完全な生徒に対し、机間指導時に要点を抑えて記述することや、途中計算での不足を補っていく。 ・関数においては、2・3年においても学習する内容なので、適宜復習を行い休み明けテストなどで確認をしていく。
理科	・授業に前向きに取り組む生徒が多い。 ・実験では説明を集中して聞けていないので、間違った操作をすることがある。 ・漢字などがわからないのでノートを書くのに時間がかかる生徒がいる。 ・コロナによる生徒実験の安全性を考える。	・事例を多く提示し、興味関心が今以上にもてるようにする。 ・実験操作について今以上にわかりやすく説明できるようにする。 ・プリントの工夫をし、今以上に書き込みしやすいようにする。 ・演示実験と生徒が取り組める実験を精査する。
音楽	・意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 ・アルトリコーダー演奏は、コロナ対応で練習時間を少なくしたので、定着が不十分な生徒が見受けられる。・歌唱は、マスク着用下での練習もあり、口の開け方の確認が不十分ではあるが、意欲的に取り組む生徒が多い。・鑑賞は視覚支援が効果的であった。	・本時の目標と流れを、黒板の左端に書いておき、始業にそれを使って見通しをもたせたり、終業で本時の振り返りをする。鑑賞授業では、映像を使用した鑑賞授業を行い、音楽の良さに気付かせる。・合唱授業では、タブレットで自分たちの演奏を録画し、聴きながら、自分たちで課題を見つけ、改善方法を考えさせ技術の定着を目指す。・重点項目は板書事項を消さずに残しておく。
美術	・真面目に活動に取り組むことができる生徒が多い。 ・定期テストでの問題の正答率が悪いことから、学習した内容の定着が不十分である。 ・発想力や構想力を広げる活動が苦手である生徒が多く見られる。	・知識を定着させるために定期的にクイズ形式で振り返りを行う。授業時にも学習した知識や技法を積極的に取り入れて定着させる。 ・定期的な話し合いを通して、他者の意見を取り入れる機会を設ける。話し合いからでたヒントを基に発想力を広げさせる。
保健体育	・授業に意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 ・課題を解決しようと、昨年に比べ、より前向きに授業に取り組む姿勢が見られるようになってきている。 ・自己の体力や技能の課題を把握し、より自主的に、考え工夫して運動に取り組んでいくことが課題である。	・学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。 ・学習をスモールステップで行い、基礎的な技能を習得して運動の楽しさを味わわせる。 ・チームティーチングを有効活用し、個別に声かけを行い、技能を習得させていく。 ・体育係や班長を中心とした活動を行い、生徒の自主的な学習を促していく。
技術・家庭	・意欲的に取り組む。実習作業となるとより積極性が顕著に現れる。一方で、自分の考えを図に表したり、文章にまとめて表現する事が十分に行えない生徒が多い。 ・計算や理論を一度に理解する事が難しい生徒が多い。特に、複数の技術や課題を一度の問題で出題されてしまうと、それぞれに理解があったとしても、課題を組み合わせる事が難しい場合がある。	・実験やレポート、実習作業の振り返り等を通して、物事をまとめる能力について育成する。ファイルやポートフォリオを作成し、成果を振り返り、成長を実感できるようにする。 ・身の回りの技術について実物や実例を用いて示す。また、複数の情報を整理して考える手段を示す。そのためには、視覚支援やICT機器の使用、能動的な学習の実施が考えられる。
外国語(英語)	全体的には授業に意欲的に取り組む生徒が多く、良く努力しているが、定着度には個人差があり、全体として、応用力・活用に伸び悩みが見られる。 類推して概要をつかむことが苦手な生徒、概要をつかむことができてもその場だけになってしまったり、他の場面に応用できることに気づけない状況が見受けられる。	ワークシート、ワークブックを活用した体系的な理解度の向上を目指す。 生徒同士でフィードバックを行うとともに、その内容に対しての評価を行い、主体性と正確性を担保する。
道徳	授業には前向きに取り組む生徒が多い。ただ、依然としてひとつの道徳的価値について多面的・多角的に捉えて考えることには課題が見られる。また、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて考えを深めたりすることにもだんだんと慣れてきたものの、まだ自分の考えを提示することをためらう生徒もいる。	少人数グループで意見交換できる場面を設定したり、教室内で自由に意見交換できる時間を設けたりするなど、様々な考えに触れ、多面的・多角的に道徳的価値について考えられる活動を取り入れる。生徒同士が安心して発言できる学級・学年づくりを進めていく。また、授業前後に教員同士の実践例を共有し、発問や展開の工夫について協議する機会を設ける。
総合的な学習の時間	校外学習を実施したことによって、集団の中で自己の責任を果たす難しさや大切さを学んだ生徒が多く見られた。いっぽうで、互いに知恵を出し合い、試行錯誤を繰り返しながら課題解決に向かう力はまだ不足している。	今後予定しているスキー教室や地域学習において、さらに協働的な学習の場面や課題解決の場面を多く設定する。また、個々が取り組まなければならない課題も設定することで、一人一人の課題解決力の向上を図る。